

A stylized map of Japan and its surrounding regions, including parts of Korea, China, and Southeast Asia. The map is rendered in shades of blue and green, with the Japanese archipelago highlighted in a lighter green. The title and text are overlaid on the map.

輸入クワガタ・カブトの問題点

— タイコ エレクトロニクス アンブ (株)
環境コーディネータ
@nifty 昆虫フォーラム サブシス
小島啓史

現在の移入種問題に 対する考え

- 以下の問題点があると認識している。
- 原産地の保護種が輸入許可されている
- 原産地で害虫となっている種・潜在的に害虫になりうる種が何の事前チェックも無しに輸入許可されている。
- 国内種と交雑し、重大な遺伝子攪乱が懸念される種が大量に輸入許可されている。
- 寄生虫や体内共生菌に関する予備知識なしに腐植食性昆虫を輸入しているリスクがある。
- 輸入許可されていない種まで平気で店頭に並んでいる。
ゴライアスオオツハナムグリ・カブトハナムグリなどなど

原産地で害虫となっている種・ 潜在的に害虫になりうる種が輸入許可されている。

- アボガドの大害虫クビホソクワガタが日本の果樹の害虫にならないとは誰の判断か？
- パプアキンイロクワガタは日本の花屋で売っているほとんどの花卉園芸植物を切り落とし吸汁する！
- 同種はモルジブでは大害虫になりつつあると言う情報もある！
- 熱帯種ながら新成虫は日本の冬を保温無しで越冬可能だった・・・
- これが温暖な花卉園芸地域で野生化したら・・・



国内種と交雑し、遺伝子攪乱が懸念される種が
大量に輸入許可されている。



どれが日本のオオクワガタでしょう？

- タイワンオオクワガタ・ホペイオオクワガタ・グランディスオオクワガタの3種は日本産オオクワガタと簡単に交雑する！
さらに 見分ける事さえ困難！
- ほとんどのオオヒラタは日本産ヒラタクワガタと交雑可能！
- こうした交雑個体や近縁種を国内種の美形大型個体と偽って売っている悪徳業者もいる！
- 非表示の輸入種を知らずに飼って、雑種を作ってしまった例も・・・

寄生虫や体内共生菌に関する予備知識なしに腐植食性昆虫を輸入しているリスクがある。

- Yahooの海外ニュースになった未知の病原性ダニは3ヶ月で70mm以上の日本産オオクワガタ・ヒラタクワガタを死亡させた。
- クワガタの多くは、幼虫の消化吸収を助ける為に体内共生菌の母子間譲渡(母子感染)を利用している可能性大!
- 彼らの体内はバクテリアの巣
- **我々は熱帯雨林の底から、一体何を輸入しているか、わかっているのか?**



クワガタムシ類の利用の現状 及び愛好家の飼育実態 1

- 生き虫購入者は繁殖飼育が主目的。
- 血統主義 特定地域ブランド主義のマニア
- 産地を詐称し交雑種でも売ってしまおうとする悪徳業者のせめぎ合いが見られる。
- 時には外国産オオクワガタ・ヒラタクワガタを単に大柄なオオクワ・ヒラタとして販売する例も報告されている。
- 毎年開催される「オオクワガタ美形コンテスト」までである。
- 昨年からは、中国産のホペイオオクワガタのコンテストもスタート。しかし同種は輸出禁止扱いのはず・・・

クワガタムシ類の利用の現状 及び愛好家の飼育実態 2

- お金をかけられるだけかける利殖目当てのマニアと、錦鯉を愛でる様な純粋な愛好家とのギャップ。あるいは貧乏人とお金持ちのギャップ。
- 色虫を好み、美形個体を交雑して品種化を計るマニア。
- 特定地域個体をブランド化、価格をつり上げようとする業者。
- 当然不人気地域は安値で取引される。
- 輸入種を飼わない国粋主義者も存在する。
- 逆に見れば希少種保護に一般家庭を利用出来る素地すら出来ている。

ブランドオオクワガタと交雑個体の比較



Kojima Hiroshi 2003

輸入等が規制された場合の問題点

- 経済効果のマイナス面。
正規輸入個体数 \times 約100\$の輸入 売り上げ金額減。
- 生体輸入自体が許可前の様に、アンダーグラウンドに潜る危険性。管理不能状態に陥る危険性。
- 販売も禁止した場合、輸入後繁殖された F1以降の個体が管理できるか？ 毎年輸入個体 \times 10以上のF1が発生する事態を收拾できるのか？
- 法的に禁止され、売れなくなったクワガタの遺棄が起こり 遺伝子攪乱やニッチェの取り合いを増長する。現在も放虫品のオオクワガタで地域固有性は失われつつある。

経済効果のマイナス面

正規輸入個体数 \times 約100\$ = 120億円以上の輸入金額減

- 正規輸入個体数を年間100万匹として
- 輸入価格を1匹平均\$100で試算すると……
- 年間 1億ドル (約120億円) の輸入減となる。
- 実際には正規以外の輸入がその2倍はある？
- 販売価格を輸入価格の2～3倍で試算すると輸入個体だけで、2億ドル～3億ドル (約360億円) の売り上げ減
- 輸入されたクワガタは繁殖されるので、輸入個体だけでなく、その子の飼料・飼育用品市場は、その10倍以上にのぼる可能性がある。
- このマイナスの経済効果は輸出国にも当然影響する。

海外とのトラブルの元凶はなにか？

- 保護種や規制がある地域から輸入を許可している日本の暴挙が招く,日本人逮捕者の数々
- 所得格差による現地の「濡れ手で粟」の期待感……
- 採集のための森林破壊・現地保護法を侵す行為。
- 苦勞して採ったのに売れない虫・裏切られた期待。
- 法規制のある国の輸出業者にとっては,生き虫の密輸は検挙されかねない危険行為。
- 日本にとどけば,何の法規制もなくフリーパスの実態。
- このギャップは国際問題に発展しかねない。

移入種問題を解決・予防するために特に何が必要と考えるか

- 原産国の保護種は原則輸入を禁止する。
- これ以上不必要に輸入種を増やさない。
- 輸入種が持つリスクを,業者・愛好家・研究者など広く一般に知らしめる。遺伝子攪乱・ニッチェの争奪・害虫化・寄生生物の危険性は特に重要。
- 生き虫輸入業者を許可制にして,密輸・密売には厳罰をもって望む。
- その上で生き虫ビジネスを適切な管理下におく。
- 単に法律で禁止しても,実効があるとは思えない。

その他移入種に関する意見

- 玉石混合ながら、クワガタの研究者が増えた。クワガタ・カブトの飼育技術は世界一のレベル。
- クワガタと同じ手法で飼える国内保護種ヤンバルテナゴコガネなどの保護育成に応用可能。
- 今後も輸入許可を続けるなら、国内の飼育技術を海外にも移転し、クワガタ輸出で外貨を稼ごうとする国に技術供与を行う。
- 原産国の野生個体や自然を圧迫せずに輸入が可能な様に、原産国に継続的な開発と現金収入が可能な体勢を構築する手助けをする。